

郷蔵米通信

2021年5月 郷蔵米生産組合

■田圃の様子

柔らかな緑が山一面を覆う佐見地区。そのあちこちで田圃の作業の音がしています。一向に収まらないコロナウイルスのせいで、今年も田植えイベントが中止となりました。楽しみにされていた皆様にはもう少しご辛抱いただき、ワクチンの普及が広まったあと、イベントを開催できたなら、その時にご参加いただければと思っています。

現在、田んぼで行われている作業は、ホームページに掲載もありますが、苗作りにはじまり、田んぼの準備、そして田植えと、日々、目まぐるしく変化しています。



■ニホンミツバチが増えました

ニホンミツバチ、この春に大量分蜂！！ 昨年、郷蔵米生産組合の組合長である清水さんから、生産者の長谷川さん、保木本さんに巣わけされたミツバチの巣から、今年の4月、次々と分蜂がはじまり、計14群が新たな巣を作りました。

とくに成山地区は郷蔵米の生産者が多いため、ミツバチにとっては良い環境が整っています。今後も順調に増えていくのではないのでしょうか。

また、ニホンミツバチは、農作物や樹木の受粉を助けているようで、里山を守る大きな役割を果たしているとのこと。なんでも、様々な受粉の約7割を助けているのだとか。おとなしい性質の蜂なので、静かに扱えば刺すこともなく、働く様子を見ていると愛着もわいてきます。



■助っ人到着

鳥インフルエンザのため、来ないかもしれないと心配されていたアイガモですが、先日（5月19日）とうとう関西から到着しました！ しばらくは夜に保温電球などを入れたりして、田んぼに入っても大丈夫な大きさに成長するまで世話をします。ですが、それもわずかな期間で、すぐに可愛いヒナたちは田んぼで泳ぎ、虫を捕ったり、雑草を食んだり、活躍が見られるようになるでしょう。頑張ってもらいたいですね。

